

講演者紹介(敬称略)

オープニング講演

芳賀 繁

立教大学 名誉教授
株式会社社会安全研究所 技術顧問
京都大学大学院修士課程修了後、鉄道労働科学研究所、鉄道総合技術研究所、立教大学現代心理学部などを経て、2018年から現職。安全マネジメントや安全教育に関する研究、執筆、コンサルティング、講演活動等を行っている。専門は産業・組織心理学、交通心理学、人間工学。著書多数。



後藤隆久

米国マサチューセッツ総合病院麻酔科レジデント（1988年）、同麻酔科集中治療医学フェロー（1992年）、最優秀レジデントを獲得。帝京大学医学部麻酔科学教授を経て横浜市立大学麻酔科学教室主任教授、大学附属2病棟の病院長を歴任。東京大学卒。



記念講演

中島和江

大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部部長 教授。大阪大学 総長補佐。大阪大学医学部附属病院 病院長補佐。ISQua's Academy of Quality and Safety in Health Care 終身メンバー。国際学会 Resilient Healthcare Society 理事長。医療の質・安全学会 理事長。神戸女子薬科大学、大阪大学医学部、フルブライト奨学生としてハーバード公衆衛生大学院修士課程卒。



基調講演 1

Erik Hollnagel

エリック・ホルナゲル

スウェーデンリンショピン大学名誉教授、パリテック（フランス）名誉教授、南デンマーク大学名誉教授、マコーリー大学（オーストラリア）名誉教授（称号）。レジリエンス・エンジニアリングの世界的権威でありSafety I・Safety IIやFRAMの提唱者。500以上の学術論文・書籍を通じて、医療・システム安全分野に多大な影響を与えている。



基調講演 2

Jeffrey Braithwaite

ジェフリー・ブレイスウェイト

マコーリー大学ヘルスシステムリサーチ教授
オーストラリア健康イノベーション研究所所長（創設者）医療の質と安全における国際的な第一人者であり、国際医療の質学会の会長も務め（2020年～2023年）、世界的な医療システムの革新に大きく貢献している。



基調講演 3

Mary D Patterson

メアリー D パターソン

フロリダ大学救急医学教授
Society for Simulation in Healthcareの元会長。
フロリダ大学体験学習・シミュレーションセンターセンター長医療シミュレーション学会と国際小児シミュレーション学会の理事を歴任。医学シミュレーション教育におけ世界的な権威。



Maritza Plaza-Verduin

マリッツァ・プラザ・ヴェルドゥイン

フロリダ大学救急医学助教。
パターンソン教授のもとで、シミュレーション教育に従事。



特別講演 1

児玉安司

1983年、東京大学法学部卒業。1991年、新潟大学医学部卒業。在日アメリカ海軍横須賀病院医師を経て、1992年から最高裁判所司法修習生、1994年から長谷川俊明法律事務所、1995年シカゴ大学ロースクール修士課程修了。1996年からBarlow Lyde&Gilbert法律事務所（ロンドン）、2012年新星総合法律事務所設立。一橋大学法科大学院客員教授。自治医科大学客員教授、情報・システム研究機構客員教授。



特別講演 2

京谷裕太

1992 年日本航空入社。1997 年 B747-400副操縦士。2004 年 B767 副操縦士。2006年からB767 機長。2009 年から飛行訓練教官。パイロットの訓練時の革新的な評価アプリの開発に従事。高校・大学時代はラグビー部に所属。神奈川県出身。



ライトニングトーク

新開裕幸

大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部副部長。看護師長。アラーム疲労問題や転倒転落予防についてデータ駆動型アプローチで取り組んでいる。



勝亦秀樹

横浜市立大学附属市民総合医療センター医療の質・安全管理部所属。薬剤師。大学病院薬剤部と地域薬局の連携を推し進める。趣味は鉄道。



滝沢牧子

埼玉医科大学総合医療センター 医療安全管理学教授。血液内科医。社会保障審議会医療分科会委員。次世代の医療情報システムのあるべき姿を検討する医療の質・安全学会と医療情報学会合同「医療安全に資する医療情報システム検討に関する合同委員会」にて委員長を務める。



北村温美

大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部副部長。腎臓内科。地域包括ケアシステムにおけるピアツーピアネットワーク構築に取り組み、医療における多職種連携を牽引。大阪大学DEIイニシアティブ特任准教授。



（国公私立大学附属病院医療安全セミナーについて）

中央クオリティマネジメント部は、平成13年4月に設立されました。平成21年からは、特別教育研究経費による教育・トレーニングプログラムの開発を進め、医療安全学の構築と人材育成に取り組み、科学的実践の基盤となる「最新の知見の普及」と「人材の育成」を重視して活動してきました。医療における「ノンテクニカル・スキル」の普及や、レジリエント・ヘルスケアの世界的な研究ネットワーク構築もその一つです。本医療安全セミナーは、この活動の核として例年実施し、これまでに約1万人が参加する規模となっています。これからも、医療に、さらにはより良い社会作りに役立つ情報を発信していきます。